

滋賀大が選手育成事業

企業と連携 第1弾テニスプロ指導

滋賀大は27日、民間企業と連携して健康増進や選手育成を目指すスポーツカレッジ事業を始めると発表した。第1弾として、住宅設備機器卸会社「橋本総業ホールディングス」(東京都)

の協力で、同社所属のプロ選手を招いた「テニスアカデミー」を開講。今後、野球やサッカーでも同様の事業を行う方針。

同大学は施設や研究成果を市民の学習に生かす「開かれた大学づくり」を進めており、その一環として同事業も行う。

同大学彦根キャンパスのテニスコートでこの日、道上静香・経済学部教授(スポーツ科学)と橋本総業HDの橋本政昭社長らが記者会見した。元テニス選手で指導経験も豊富な道上教授

は「スポーツ科学の知見を市民に還元し、テニス選手に夢と希望を与えられるよう努めたい」、橋本社長は「産学でトップレベルの選手を育て、社会に貢献できれば」と述べた。

アカデミーの初日は、同社の小関みちか選手、同社テニスチーム総監督の吉田友佳さんが子供らを指導した。彦根市立鳥居本中2年中村榎乃さん(14)は「的確な指導を受けてすごく勉強になった」と喜んでいった。



記者会見で事業に意欲を見せる(左から)道上教授、橋本社長、吉田さん(彦根市で)

(C) 読売新聞社。無断転載・複製禁止。放送、出版等での二次利用の際は読売新聞知的財産担当 (mail: t-chizai06@yomiuri.com tel:03-6739-6961) まで。